

# 一般社団法人 教育システム情報学会

Japanese Society for Information  
and Systems in Education

## ニュース・レター No.189



発行日 2014年4月1日

発行所

一般社団法人  
教育システム情報学会  
発行者 前迫 孝憲

〒533-0005

大阪市東淀川区瑞光3丁目3-25-101

TEL&FAX 06-6324-7767

URL <http://www.jsise.org>

E-MAIL [secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)

## 一般社団法人移行のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素より格別のご高配を賜わり厚くお礼申し上げます。

当学会は、公益法人制度改革対応のための諸準備を進めてまいりましたが、平成26年4月1日(移行登記日)付で旧団体解散および新法人の設立登記を行い、法人名称が「一般社団法人教育システム情報学会」と変更になりましたので、ここにお知らせ申し上げます。

法令に基づき、旧団体からの権利義務は新法人がすべて承継し、法人としては同一性を持って存続いたします。

新法人移行に際して、多大なご協力を賜りました理事・評議員・監事をはじめとする会員の皆様に謹んでお礼を申し上げますとともに、一般社団法人として、今後もより一層努力していく所存ですので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

新名称「一般社団法人教育システム情報学会」  
(旧名称「教育システム情報学会」)

所在地 大阪府大阪市東淀川区瑞光三丁目3-25-101  
TEL/FAX 06-6324-7767  
URL <http://www.jsise.org/>

平成26年4月吉日  
一般社団法人教育システム情報学会  
会長 前迫 孝憲



一般社団法人移行のお知らせ程・・・・・・・・・・1  
2014年度第1回研究会 プログラム・・・・・・・・2-4  
2014年度第2回研究会 講演募集・・・・・・・・・・5  
2013年度第6回・特集論文研究会開催報告・・・・6  
2014年度全国大会のお知らせ・・・・・・・・・・7-8  
全国大会企画セッション募集のお知らせ・・・・9  
特集論文 Call For Paper・・・・・・・・・・10-11  
2014年度研究会年間開催予定・・・・・・・・・・11  
英文誌編集委員会よりお知らせ・・・・・・・・12-13  
英文誌 Call For Paper・・・・・・・・・・14  
「英文誌 Authors Instruction」  
の一部分改定について・・・・・・・・15-16  
国際会議 ICCE2014 論文募集のお知らせ・・・・17  
国際会議のご案内・・・・・・・・・・18  
新入会員のご紹介・事務局より・・・・・・・・19-20



**教育システム情報学会 (JSiSE)**  
**2014年度第1回研究会プログラム・参加者募集**

一般社団法人教育システム情報学会(研究会委員会)  
担当：仲林清，松居辰則，北村士朗，真嶋由貴恵，加藤泰久，櫻井良樹

- テーマ： eラーニング環境のデザインと組織マネジメント/  
医療・看護・福祉分野におけるICT利用教育/一般
- 日時： 2014年5月10日(土) 10:30-17:50
- 会場： 放送大学 (千葉市美浜区若葉2-11)  
<http://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/gaiyo06.html>  
A会場 西研究棟8階 ラウンジ  
B会場 西研究棟8階 803講義室

※参加費無料/研究会資料代: 1,000円

■□■□■2014年度第1回研究会プログラム■□■□■ 1件25分(発表18分, 質疑6分, 交代1分)

◇開 場 10:00

◇開会の挨拶 10:30-10:35 (A会場のみで実施)

[A会場. 西研究棟8階 ラウンジ]

◇開会の挨拶 10:30-10:35

◇セッションA-1 人材マネジメント, Learning Analytics 10:35-12:15

10:35-11:00

グローバル化・情報化社会での人財育成と管理手法試案について

○金山茂雄(拓殖大学)

11:00-11:25

情報通信サービス業を中心とした実践的インターンシップ実施時の産学連携体制に関する考察

○新目真紀, 半田純子, 合田美子, 長沼将一, 玉木欽也(青山学院大学)

11:25-11:50

クラウド&コグニティブ・コンピューティングを活用したeラーニングシステムの提案

○松本哲(ヒューマンサクセス株式会社)

11:50-12:15

Big Data処理によるICT活用の一例

○辻岡圭子(大阪大学大学院)

◇休憩 12:15-13:15

◇特別講演 13:15-14:45 (A会場のみで実施)

■題名 : 消防本部における e-ポートフォリオ mahara 導入のねらいと普及戦略  
~考える個人と組織を目指して~

■講演者: 横浜市消防局 藤田 豊 氏

■概要 : 横浜市消防局では, 5年前にmoodle を導入し, 今回, 新たにe-ポートフォリオシステム mahara を導入しました. 目的は「職員の考える力を引き出し, 個の考えを共有する風土を養う」ことです. なぜ 既存の moodle ではなく, 新たに mahara が必要だったのか? 運用開始から1年が経ち, 実際にはどのような使われ方をしているのか? 現在の mahara に欠けているものは? そして, 準備中の追加機能や今後の普及戦略の全貌などを, デモを交えながら解説します.

◇休憩 14:45-15:00

◇セッションA-2 医療・特別支援 15:00-16:15

15:00-15:25

医療教育におけるmoodle活用の事例報告およびコミュニティ作成の提案

○浅田義和(自治医大)

15:25-15:50

MRI撮像技術教育のためのコンピュータシミュレーション教材の開発

○堀謙太, 林則夫(群馬県立県民健康科学大学), 佐藤哲大(奈良先端科学技術大学院大学),

岡田知久(京都大学医学部附属病院), 柏倉健一(群馬県立県民健康科学大学)

15:50-16:15

特別支援教育教材共有ネットワークの開発と運用

-インクルーシブ教育システムと学校のセンター的機能をふまえて-

太田和志(東大阪大学短期大学部), 鴨谷真知子(東大阪大学短期大学部), ○西端律子(畿央大学),

高橋浩(奈良県立奈良養護学校), 藤川良純(奈良県立奈良養護学校)

◇休憩 16:15-16:30

◇セッションA-3 看護 16:30-17:45

16:30-16:55

看護技術の習得を促進する効果的な動画視聴の工夫 -Just-in-Time Teachingの概念を活用して-

○徳永基与子, 平野加代子(京都光華女子大学)

16:55-17:20

看護援助技術の授業におけるARCSモデルに基づいた評価ツールの検討

○重年清香(森ノ宮医療大学), 真嶋 由貴恵(大阪府立大学)

17:20-17:45

看護技術演習映像の自己評価と視点提示の効果

○平野加代子, 徳永基与子(京都光華女子大学), 真嶋 由貴恵(大阪府立大学)

## [B会場. 西研究棟8階 803講義室]

### ◇セッションB-1 システム 10:35-12:15

10:35-11:00

授業支援システムに補習学習機能による欠席者への教育効果の検証

○岩崎 凜太郎, 中山 洋(東京電機大学), 松田 稔樹(東京工業大学大学院)

11:00-11:25

プログラミング初学者のためのアニメーションを用いた学習支援システムの提案

○佐々木瞬(尚美学園大学大学院), 山本樹, 須藤智, 恩田憲一(尚美学園大学)

11:25-11:50

行動原理に基づく省エネ行動を促進するWebアプリケーションの開発

○日野浦 弘樹(大阪府立大), 真嶋由貴恵(大阪府立大学大学院)

11:50-12:15

HTML5時代の数式表示可能な数学のコミュニケーションシステムとe-ラーニングシステムの構築

○山下伸男, 江見圭司(京都情報大学院大学)

◇休憩 12:15-13:15

### ◇セッションB-2 授業(1) 15:00-16:15

15:00-15:25

技術イノベーションに関するビデオとオンラインレポートを活用した授業実践における学習者の理解度分析

○仲林清(千葉工業大学)

15:25-15:50

ソーシャルメディアの実践的活用を目指した情報リテラシー教育の運用と評価

○河野義広(東京情報大学)

15:50-16:15

音響教育のためのWebベースリアルタイム教材群

○須田宇宙, 菅原愛子(千葉工業大学大学院)

◇休憩 16:15-16:30

### ◇セッションB-3 授業(2) 16:30-17:45

16:30-16:55

学習者ペア編成最適化システムにおける動作式の拡張

○田中頼人(早稲田大学)

16:55-17:20

Gamification of EFL Education to use Surala

○松本多恵(名古屋大学)

17:20-17:45

IMS-LD・レベルB活用支援のためのアーキテクチャに関する考察

○喜久川功, 有富智世(常葉大学), 宮寺庸造(東京学芸大学)

◇閉会の挨拶 17:45-17:50 (A会場のみで実施)

◇懇親会 18:00-20:00

# 教育システム情報学会 (JSiSE) 2014 年度第 2 回研究会 講演募集

一般社団法人教育システム情報学会(研究会委員会)  
担 当：野崎浩成、不破 泰、小松川浩、布施 泉

■ テーマ「ICT を活用した学習支援と教育の質保証/一般」

■ 開催日時：7 月 20 日 (日)

■ 会場：千歳科学技術大学 (北海道千歳市)

※ 備考：日本情報科教育学会「第 7 回全国大会」と同時開催。

JSiSE 第 2 回研究会参加の皆様は、日本情報科教育学会の招待講演等を無料聴講できます。

■ 趣旨：本年度第 2 回研究会は、「ICT を活用した学習支援と教育の質保証/一般」のテーマで実施いたします。

ICT を活用した学習支援、教材システム、学習支援の環境や技術、学習コンテンツの開発・評価など、e-Learning や学習支援に関する研究、ならびに、そのようなシステムやコンテンツの活用事例を通じた教育的な効果や有効性に関する研究を広く募集します。

これらの研究を通じて、教育の質保証を図り、学力格差の是正や学習の質的の向上を目指します。

さらに、システム開発やコンテンツ作成をはじめ、教育実践や教材評価、カリキュラムの設計、学習科学、言語教育など、教育に関連した幅広い分野からの発表も歓迎いたします。

また、今年度の本研究会は、日本情報科教育学会 (JAEIS)「第 7 回全国大会」と同時開催されます。研究会参加の皆様は JAEIS の招待講演等を無料聴講できます。これを機会に、情報科教育に関連する研究発表の申込みも期待しております。

職場の同僚や共同研究をしているグループなど、お誘い合わせの上、奮って、ご参加下さい。

**[発表申込み] 発表申込み締切:2014 年 5 月 17 日(土曜日)**

以下の事項を電子メールにてお送りください。

1. 発表タイトル
2. 発表者・所属 (登壇者に○)
3. キーワード (3~5 語程度)
4. 連絡先：氏名, 電子メールアドレス  
申込先: 不破 泰 (fuwa@shinshu-u. ac. jp)

**[発表原稿の提出] 原稿提出締切:2014 年 6 月 7 日(土曜日)**

1. 原稿は A4 用紙で, 2 枚以上 8 枚以下の偶数枚でお願いします。
2. 原稿の形式は, 学会 Web サイトの研究会開催案内ページの下部に掲載しております「研究会報告執筆要領・見本」をご確認ください。  
<http://www.jsise.org/studygroupcommittee/format.html>
3. 研究報告の原稿提出時に, 合わせて著作物利用許諾書の提出が必要です。  
<http://www.jsise.org/utility/copyright.html>
4. 原稿送付先

フォント埋め込みされた PDF 形式にてメールに添付してお送り下さい。

原稿送信先: 不破 泰 (fuwa@shinshu-u. ac. jp)

※本研究会報告の書誌情報は CiNii に掲載されます。

※研究報告の原稿提出時に, 著作物利用許諾書の提出が必要です。

<http://www.jsise.org/utility/copyright.html>

※営利目的でない場合には, 学会の許可なく著者らが論文等を利用すること (Web サイト等に掲載を含む. 出典要明記) が許されています。詳しくは著作権規定をご確認ください。

[http://www.jsise.org/utility/pdf/copyright/copyright\\_kitei.pdf](http://www.jsise.org/utility/pdf/copyright/copyright_kitei.pdf)

※参加費は無料ですが, 登壇者には資料の購入(1000 円)をお願いしています。

なお, 個人で研究会資料を年間購読されている場合は, その限りではありません。

\*\*\*\*\*

## JSISE2013 年度第 6 回研究会 開催報告

\*\*\*\*\*

- テーマ：新しい教育を切り開く ICT の利用実践・開発研究／一般
- 開催日：2014 年 3 月 15 日（土）
- 会場：名古屋学院大学
- 担当：松永公廣，西野和典，西端律子，鷹岡亮，会場担当：松永
- 発表件数：42 件
- 参加者数：137 名（特集研究会との総計）

概要：2013 年度第 6 回研究会を 2014 年 3 月 15 日（土），名古屋学院大学白鳥学舎（愛知県）にて開催しました。今回のテーマは「新しい教育を切り開く ICT の利用実践・開発研究／一般」であった。発表内容は、特別支援教育における ICT 活用，ICT の教育利用，プログラミング教育，学習コンテンツと教育デザイン，学習支援教材の開発，情報リテラシー教育，教育評価，学習環境と学習支援デザイン，生涯学習支援デザイン，学習支援とインタフェース，学習支援システム，学習コンテンツと教育デザインなど想像以上に幅広いものであった。これらの発表内容について参加者は活発に議論を行ない，研究会終了後も参加者間での議論が尽きないほど熱気ある研究会でした。

\*\*\*\*\*

## JSISE2013 年度特集論文研究会 開催報告

\*\*\*\*\*

- テーマ：持続可能な学習教育支援システムの開発と運用
- 開催日：2014 年 3 月 15 日（土）
- 会場：名古屋学院大学
- 担当：小西達裕，小島一晃，東本崇仁，松永公廣
- 発表件数：27 件
- 参加者数：137 名（第 6 回研究会との総計）

■概要：2013 年度特集論文研究会は第 6 回研究会と合同で 2014 年 3 月 15 日（土）に名古屋学院大学白鳥学舎（愛知県）にて開催いたしました。特集号テーマである「持続可能な学習教育支援システムの開発と運用」をテーマとする 27 件の発表があり、うち 25 件がコメント希望論文でした。コメント希望論文については研究会委員会および学会誌編集委員会より学会誌論文投稿に役立つコメントを作成し、当日発表者の方にお渡ししました。今回もコメント希望論文については十分な議論ができるよう、発表時間 25 分、質疑時間 15 分とさせていただきました。それでも質疑時間を使いきってなお議論が尽きない発表も多く、大変充実した研究会でありました。既に 3 月末の時点で本研究会の発表内容を発展させた論文投稿が何件も行われており、特集号への投稿活性化につながったものと思われます。

# 2014 年度第 39 回 JSiSE 全国大会のご案内

テーマ： 多様化する教育・学習工学とそれを支える基盤技術  
—形式知から経験知・身体知，そして創造性の育成—  
<http://www.jsise.org/taikai/2014/>

- 開催日時： 2014 年 9 月 10 日(水) ～ 9 月 12 日(金)
- 会 場： 和歌山大学 (〒640-8510 和歌山市栄谷 930)
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

## ■ 大会日程 (予定)

9 月 10 日 (水)	
午前	プレカンファレンス
昼	開催大学挨拶・講演・企業セッション
午後	一般セッション (含インタラクティブセッション)
9 月 11 日 (木)	
午前	一般セッション
昼	理事会・表彰・講演
午後	企画セッション
夜	懇親会
9 月 12 日 (金)	
午前	一般セッション
昼	講演
午後	公開フォーラム・クロージングセッション

(\*) 大会日程は変更の可能性があります。

## ■ 大会までのスケジュール

投稿締め切りの後に、参加申し込みが開始されます。発表者には、参加申し込み開始時にメールでご連絡いたします。

- 2014 年 4 月 17 日(木) 講演申込・投稿開始
- 2014 年 5 月 28 日(水) 講演申込締切
- 2014 年 6 月 25 日(水) 投稿締切
- 2014 年 6 月 27 日(金) 参加申込開始
- 2014 年 7 月 18 日(金) [発表者] 参加申込締切
- 2014 年 8 月 12 日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2014 年 8 月 20 日(水) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ 大会参加費

事前申込	当日申込
一般会員：7,560円 学生会員：3,240円 非会員（学生以外）：10,800円 非会員（学生）：5,400円 論文掲載料：1,080円（論文一編につき）	一般会員：8,640円 学生会員：4,320円 非会員（学生以外）：11,880円 非会員（学生）：6,480円
全国大会当日、またはそれ以前に入会手続きを行われる場合は、会員料金でお申し込みいただけます。	
[懇親会費] 一般：未定 学生：未定	[懇親会費] 一般：未定 学生：未定

参加費等はいずれも税込みです。支払いの詳細は、大会 Web サイトをご覧ください。

プレカンファレンスのみに参加する場合は、大会参加登録、および参加費の支払いは不要です。

■ プログラム

プログラムは変更の可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

○ 企画セッション（9月11日(木)）

1. 身体知・経験知に関わる学習の分析と支援
2. サステナブルな医療者教育を目指した先進的な教育デザイン
3. ゲーム・エンターテインメントと教育システム
4. Learning Analytics ver.2 を目指す先端的学习支援技術と学習分析
5. 電子教科書が拓く学習環境の可能性
6. eラーニング環境のデザインと人材マネジメント
7. プレゼンテーションにおける学習支援
8. キャリアデザインと情報教育
9. 新技術の開発と活用による次世代教育・学習環境のデザイン
10. 日本における情報リテラシー・情報モラル教育 —カリキュラムの国際比較から—

■ 予稿集について

第37回大会より講演論文集の印刷を廃止し、CD-ROM、およびWebによる配布としております。Web版の予稿集は、9月3日(水)に大会参加者のみに公開され、2015年3月4日(水)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトをご覧ください。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。詳細は大会 Web サイトをご覧ください。

■ 大会事務局

〒533-0005 大阪市東淀川区瑞光3丁目3-25-101

一般社団法人教育システム情報学会 第39回全国大会 実行委員会

E-mail: jsise-desk@bunken.co.jp

2014年度（第39回）全国大会  
プレカンファレンス企画募集のご案内

一般社団法人教育システム情報学会企画委員会

委員長岡部成玄

全国大会の初日（9月10日（水））午前中（9時～11時50分（予定））に開催されますプレカンファレンスの企画を募集致します。全国大会に関わる会員間交流に関わる企画や、支部等による企画、外部の方を招聘した企画など、様々な視点での企画を募集致します。講演会形式・研究発表会形式・パネルディスカッション形式・ハンズオン形式など、自由に設定できます。奮ってご応募ください。なお、開催致します企画は、企画委員会で審査の上、決定いたしますので、ご了承ください。

- 企画は、参加者にオープンであることとし、プレカンファレンスのみに参加の場合には、大会参加登録は必要ありません。
- プレカンファレンスでの発表については、論文集に掲載致しません。ただし、企画の概要・予定については掲載（大会Web サイトへの掲載を含む）致します。

開催内容について、学会Webサイト等で報告いただくことがあります。

企画の提案者（オーガナイザ）は、以下の項目をご記入の上、企画委員会

（kikakuboshu@jsise.org）宛まで電子メールにてお申し込みください。

- テーマ
- 概要(A4 用紙1 枚以内) と使用教室についての希望（予想参加人数）
- オーガナイザの氏名・所属・連絡先(電子メールアドレスなど)

※オーガナイザは教育システム情報学会会員に限ります。

■申込期限

2014年5月19日(月)

(2014年5月31日(土)までに採否結果を通知いたします)

## 論文特集 Call For Paper

### 持続可能な学習教育支援システムの開発と運用

ICT 技術の発展と全ての教育機関（初等・中等・高等教育機関等の公式教育機関，企業や教育サービス業者等の非公式教育機関を含む）における情報インフラ整備の進展に伴い，これまでに蓄積されてきた教育システム研究の成果をシステムの機能として実現すること，また開発したシステムを日常的に利用して長期間にわたる大規模な実践をすることが比較的容易になってきました．このような状況の中，今後一層重要となるのが学習教育システムの開発と運用の持続可能性であり，容易で継続的にシステムを運用できるようにすること，そして目指す学習や教育の形と支援機能の連携を明確にして改善できるようにすることが求められます．そこで本特集号では，学習教育支援システムの開発と運用の両面に焦点を当て，既存または新規に関わらず目指す学習や教育の形と明確に対応付けた新しいシステムや要素技術の開発，または長期間あるいは多数のユーザを対象とする優れた運用実績を持つシステムの教育実践をテーマとする論文を募集します．

#### 1. 対象分野

本特集号では応用分野・システム開発の基盤となっている技術分野などには制約を設けず，プラットフォームからアプリケーションまでの学習教育支援システムの構築と運用に関する論文を広く募集します．対象とするのは必ずしも組織的に行っているプロジェクト等に限らず，個々の教員が各自の講義などで利用しているシステムの開発や運用で得られた知見も **good practice** として幅広く歓迎したいと考えています．また，システムの評価においては必ずしも学習効果の精密な統計的分析を前提として求めず，提案するシステムの機能の技術的実現性と妥当性の論証，実用年数や実利用者数の規模，活用するデータの規模などにも一定の価値を認めることとします．

対象分野の例を挙げますが，本特集の対象はこれらに限るものではありません．

LMS, CMS, CSCL, e ポートフォリオ, e テスティング, 遠隔教育システム, オーサリングシステム, コンテンツ自動生成, マルチメディア活用, ソーシャルメディア活用, 知的学習支援システム, 先進的デバイス活用, 先進的ヒューマンインタフェース活用, シミュレーション, マイクロワールド, スキル学習支援システム, データマイニング活用 など

#### 2. 論文種別

すべての種別の論文（原著論文，実践論文，ショートノート，実践速報）を募集します．特に，先進的でありつつも発展途上のシステムやそれを活用した教育実践に関する報告，長期間にわたる大規模な教育プロジェクトの中間報告など，速やかに公表することにより本学会会員の参考となるショートノートや実践速報の積極的な投稿も歓迎します．なお，査読結果により，投稿時とは異なる種別での採録となる場合もあります．また，特集号編集委員会の判断で，一般投稿論文として扱う場合もあります．

#### 3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます．詳細は教育システム情報学会の Web サイト (<http://www.jsise.org/>) で確認してください．なお，投稿の際には以下の点にご注意ください．

- すべての方へ：「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください．
- 特集研究会（2014年3月15日（土）於；名古屋学院大学）で発表を行った方へ：投稿情報入力の際，「事務局への連絡事項」の欄に特集研究会での発表題目と発表番号を記載してください．

#### 4. スケジュール

投稿原稿〆切：2014年4月25日（金）

掲載予定巻号：2015年1月1日発行予定の学会誌（Vol.32, No.1）

#### 5. 編集委員会

委員長：仲林清（千葉工業大学），副委員長：小西達裕（静岡大学），瀬田和久（大阪府立大学）

幹事：笠井俊信（岡山大学），小島一晃（帝京大学），東本崇仁（東京理科大学）

委員：青木久美子（放送大学），石井成郎（愛知きわみ看護短期大学），加藤由香里（東京農工大学），  
合田美子（熊本大学），曾我真人（和歌山大学），田中規久雄（大阪大学），丹羽雅之（岐阜大学），  
根本淳子（熊本大学），長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学），平嶋宗（広島大学），  
布施泉（北海道大学），堀口知也（神戸大学），真嶋由貴恵（大阪府立大学），益川弘如（静岡大学），  
松浦健二（徳島大学），森本康彦（東京学芸大学），山崎治（千葉工業大学），  
吉川厚（東京工業大学），渡辺健次（広島大学）

#### 6. 問い合わせ

- ・特集号全般に関する問い合わせ：

編集委員会副委員長 小西達裕（静岡大学 E-mail: konishi@inf.shizuoka.ac.jp）

- ・投稿に関する問い合わせ：

教育システム情報学会編集事務局（電話：03-5389-6492 E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19 株式会社国際文献印刷社 長澤

### — 2014年度 研究会開催予定 —

	テーマ	日時	会場	申込 締切	原稿 締切
第1回	eラーニング環境のデザインと組織マネジメント/医療・看護・福祉分野におけるICT利用教育/一般	5月10日(土)	放送大学	3月17日	4月7日
第2回	ICTを活用した教育の質保証とその評価/一般	7月20日(日)	千歳科学技術 大学	5月17日	6月7日
第3回	ゲーム・エンターテインメントと教育システム/一般	9月(予定)	香川大学	未定	未定
第4回	タブレットメディア・スマートフォンなどの新しいICTを用いた先進的な学習・教育支援/一般	11月1日(土)又 11月8日(土)	電気通信大学	未定	未定
第5回	新技術の開発と活用による次世代教育・学習環境のデザイン/一般	2015年 1月中旬に実施	大阪産業大学	未定	未定
第6回	新たなネット時代のソーシャルメディアリテラシーと情報倫理/一般 ※第6回研究会と並列開催で、和文誌特集論文研究会を予定	2015年 3月21日(土)	関東地区で 開催予定	未定	未定

## 英文誌編集委員会からのお知らせ

英文誌： The Journal of Information and Systems in Education, Vol. 12, No. 1 に採録されたすべての論文が J-STAGE に掲載されましたのでご報告致します。下記 URL よりご覧ください。

英文誌 Vol.12 No.1

【日本語】 <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise/-char/ja>

【英語】 <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise/>

なお、新たに掲載されました採録論文の概要とキーワードをお知らせ致します。

---

---

### The Journal of Information and Systems in Education Vol. 12(2013) No. 1

#### Practical Paper

#### **An Approach to Utilize Ubiquitous Devices for a Game-Based Learning**

**Environment**

p.27-38

Takashi Tachino, Kazumasa Yokota, Anthony Madden

Released: March 01, 2014

**Abstract** In recent years game-based learning has seen remarkable growth. Existing computer-based learning platforms utilize the Internet to provide efficient access to information, allowing for the exchange of ideas and knowledge. These platforms aim to create an online community; however, such attempts target only traditional Internet users, excluding the ever-increasing number of people that access the World Wide Web via mobile phones. We suggest an innovative approach to enhancing the educational environment, where participants can register and play learning games game on both smartphone and mobile phone devices. We introduce a game-based learning environment on ubiquitous devices using reality-based simulation games that create a learning environment in which it is possible for students to practice decision making. Additionally we also present some preliminary research results involving volunteers using a sample mobile-based learning game.

**Keywords:** business game, WBT, game-based learning, mobile-based learning, learning environment

#### Original Paper

#### **Investigating the Relation between Behavior and Result in Pair Programming:**

**Talk and Work Leads to Success**

p.39-49

Tomoo Inoue

Released: March 04, 2014

**Abstract** Pair programming, a programming technique conducted by two programmers working together at one work station, has been adopted for learning programming. Although it is known to be effective in various aspects, micro observation of the learning activity and collaboration has yet to be conducted in relation to the outcome. In this study, behavior in pair programming learning was investigated in terms of verbal communication and programming action and then behavior was compared in relation to the success of problem-solving. In successful cases, it was found that: 1) the learners took programming actions more frequently and 2) the learners took more programming actions immediately after the dialogue. This suggested that closely-knit dialogue and action can be an indicator of successful problem-solving, and the findings can be applied to collaborative learning support systems.

**Keywords:** pair programming, behavior analysis, collaborative learning, problem-solving

#### Short Note

**Wikipedia-Based Concept-Map Building and Question Generation** p.50-55

Corentin Jouault, Kazuhisa Seta

Released: March 20, 2014

**Abstract** This research aims to give learners more content-dependent scaffolding in the self-directed learning of history. Learners use a system to build a concept map containing a chronology. The system is able to generate content-dependent support adapted to the learners. For this support, we intend to build a semantic open learning space using a natural language online encyclopedia and semantic information using the open linked data. The support is provided by the automatically generated questions according to a learner's request by referring to the concept maps of the learner and the system. The generated questions aim to lead learners to new knowledge, deepening their understanding.

**Keywords:** question generation, adaptive learning support, open linked data, concept map building

## Call for Papers

The Journal of Information and Systems in Education, Vol. 13

JSiSE (Japanese Society for Information and Systems in Education) has published *The Journal of Information and Systems in Education* annually since 2002. The editorial committee of the journal welcomes submissions of articles for volume 13 of the journal.

Computers and network communications technology, which are the bases of information communication technology (ICT), have infiltrated various aspects of education, including styles of teaching and learning activities. Elementary, higher, enterprise, and lifelong educational institutions are incorporating various kinds of ICT equipment in synchronous and asynchronous learning. Many advanced companies have identified that “e-learning” frameworks are very important to their employees in order to acquire knowledge and skills depending their jobs. In these developing environments for e-learning, learning technology research and contribution are getting increased attention for effective and successful e-learning. Although research in this area has continued for over 50 years, it remains one of the most critical issues for learning activities today.

*The Journal of Information and Systems in Education* aims to spread outstanding research and practice results in the field of learning technology to professionals all over the world. To contribute the progress of learning technology research and practice, researchers and practitioners are encouraged to submit their advanced results in the topics below.

### Scope:

The topics of papers include, but are not limited to:

- Learning technology systems: infrastructure, frameworks, architectures, etc.
- Methodology and pedagogy of e-learning: collective, instructional, collaborative, etc.
- Administration, maintenance, and evaluation of e-learning activities
- Core technology related to learning technology: database, artificial intelligence, etc.
- Sciences related to learning technology: cognitive science, educational psychology, etc.

### Important Date:

The submission deadline: 5 June, 2014

### Instructions for Authors:

Please refer to the “Authors Instruction” in the JSiSE Web site below in preparing manuscripts for submission.

<http://www.jsise.org/journal/pdf/AuthorsInstruction.pdf>

### Paper Submission:

Authors must submit their papers through the web submission system at:

[https://www.wdc-jp.biz/jsise/journal\\_e/applicant/login.html](https://www.wdc-jp.biz/jsise/journal_e/applicant/login.html)

### Publication:

Vol. 13 will be published on the J-STAGE Web site. The papers accepted in the next year (2015) will be appeared in Vol.14.

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise/>

### Contact Address:

JSiSE International Journal Editorial Office

E-mail: [jsise-edit@bunken.co.jp](mailto:jsise-edit@bunken.co.jp)

## 「英文誌 Authors Instruction」の一部改定について

一般社団法人教育システム情報学会  
英文誌編集委員会

今回、英文誌 Authors Instruction（投稿規程）を、以下の通り一部改定することになりましたので、お知らせいたします。

### 1) 改定内容 1

投稿論文の条件として、二重投稿に関する規定を明確化します。

### 2. Condition for Submission

(略)

2) Submitting papers/articles should be unpublished, and should not be under submission to or review by other academic journals/societies. However, this policy is not applied for papers/articles, which summarize oral presentations given at international conferences, annual meetings, technical workshops, etc. The paper/article containing the same contents is also prohibited to be submitted to other academic journals/societies until the review process is completed.

3) In case there is some doubt that the submitted paper/article has been doubly submitted to or published by another academic journal/society, the editorial committee may inspect the contents of the paper/article jointly with the academic journal/society.

4) In case the double submission is approved, the editorial committee may inflict penal regulations on the authors including the rejection of the submitted paper/article or the cancellation of the accepted paper/article.

### 2) 改定内容 2

Short Note 及び Report on Practice に関しては、著者紹介を不要にします。

### 5. Manuscript Format

(略)

#### 5.2 Structure of Manuscript

(略)

8) Author Photograph and Biography: Accepted Original Paper or Practical Paper needs photograph and biography of each author. It's not necessary for Short Note or Report on Practice.

3) 改定内容 3

掲載論文の料金体系を別刷代 (Printing Cost) から掲載料 (Publishing Fee) に変更し, 別刷はオプションとして販売します (下記 Reprint Fee を参照下さい).

## 7. Publishing Fee

As shown in Table 1, a publishing fee will be charged. The editorial committee shall decide on the fee if the number of pages is beyond 15.

Table 1: Publishing Fee (JPY)

Pages	JSiSE member	Non-member
1-2	15,000	27,000
3-4	20,000	32,000
5-6	25,000	37,000
7-8	30,000	42,000
9-10	55,000	67,000
11-12	85,000	97,000
13-14	145,000	157,000

Author(s) could purchase the reprints of the accepted paper/article. Table 2 shows the fee for reprints in JPY.

Table 2: Reprint Fee (Only Black and White page) (JPY)

Pages	50 Copy	100 Copy	150 Copy	200 Copy	250 Copy	300 Copy
1-2	13,000	16,000	20,000	25,000	29,500	34,000
3-4	14,000	17,500	22,000	27,500	32,500	37,500
5-6	15,000	19,000	24,000	30,000	35,500	41,000
7-8	16,000	20,500	26,000	32,500	38,500	44,500
9-10	17,000	22,000	28,000	35,000	41,500	48,000
11-12	18,000	23,500	30,000	37,500	44,500	51,500
13-14	19,000	25,000	32,000	40,000	47,500	55,000

4) 改定実施日

改定されました英文誌 Authors Instruction の発効は 2014 年 4 月 1 日とします.

## 国際会議ICCE2014論文募集のお知らせ

### **22<sup>nd</sup> International Conference on Computers in Education**

Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan

November 30 to December 4, 2014,

<http://icce2014.jaist.ac.jp>

#### **Important dates:**

May 12, 2014 -paper submission

August 4, 2014 -Notification of acceptance

ICCE 2014 consists of seven theme-based sub-conferences as follows:

- C1:** Artificial Intelligence in Education/Intelligent Tutoring System (AIED/ITS) and Adaptive Learning (AL)
- C2:** Computer-supported Collaborative Learning (CSCL) and Learning Sciences (LS)
- C3:** Advanced Learning Technologies, Open Educational Content, and Standards (ALS)
- C4:** Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning (CUMTEL)
- C5:** Digital Game and Digital Toy Enhanced Learning and Society (GTEL&S)
- C6:** ICCE Conference on Technology Enhanced Language Learning (TELL)
- C7:** Practice-driven Research, Teacher Professional Development and Policy of ICT in Education (PTP)

#### **Conference chair:**

Siu Cheung KONG, Hong Kong Institute of Education, Hong Kong

#### **IPC Coordination Chair:**

Chen-Chung LIU, National Central University, Taiwan

IPC Coordination Co-chair:

Hiroaki OGATA, Kyushu University, Japan

#### **Local Organizing Committee chair:**

Akihiro KASHIHARA, The University of Electro-Communications, Japan

Organized by: Asia-Pacific Society for Computers in Education (APSCE)

Co-hosted by: JSiSE, JSET, and JAEIS

## 国際会議のご案内

国際会議のご案内は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介や、インターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、ご連絡ください。

また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

### 2014 年 9 月開催

☆KES 2014: 18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems

- ・ 開催期間 : September 15-17, 2014
- ・ 開催地 : Gdynia, Poland
- ・ URL: <http://kes2014.kesinternational.org>
- ・ 論文投稿スケジュール: Papers (General Sessions): March 15, 2014

### 2014 年 7 月開催

☆UMAP 2014: The 22nd Conference on User Modeling, Adaptation, and Personalization

- ・ 開催期間 : July 7-14, 2014
- ・ 開催地 : Aalborg, Denmark
- ・ URL: <http://um.org/umap2014/>
- ・ 論文投稿スケジュール : Paper submission deadline: April 1, 2014

☆EDM 2014: The 7th International Conference on Educational Data Mining

- ・ 開催期間 : July 4 - 7, 2014
- ・ 開催地 : Institute of Education, London, UK
- ・ URL: <http://www.educationaldatamining.org/EDM2014/>
- ・ 論文投稿スケジュール :

Abstract for full/short/industry paper submissions due: February 17, 2014

Full, short paper, and industry submissions due: February 24, 2014



## 新入会員の紹介

下記の皆様方が、新しくご入会されました。

2014/2～2014/3

名前（敬称略）	所属機関	会員種別
丸山幸三	帝京大学	準会員
近藤博志	国立病院機構 東徳島医療センター	正会員
菅野亜紀	神戸大学	正会員
岩坂英巳	奈良教育大学	正会員
藤井光輝	国立病院機構 浜田医療センター	正会員

## 新 入 会 員 募 集

一般社団法人教育システム情報学会は、教育分野における情報通信技術の利用に関する学術研究・調査および情報交換を支援し、教育への情報通信技術の利用を普及させることをその目的としています。

定期的開催される研究会・セミナーなどに、研究成果を発表できることや、そのほか、定期刊行物の論文誌、研究報告書(年間購読お申し込みの方)などがお手元に届きます。

教育分野における情報通信技術の利用に関する学術研究に興味のあるお知り合いの方がおられましたら、是非ご紹介をいただきますようお願い申し上げます。

### ■お申し込み方法■

入会をご希望の方は、入会申込書は学会Webページ (<http://www.jsise.org/>) に掲載しておりますので (PDFファイル) ダウンロードしていただき、必要事項をご記入の上、学会事務局にご郵送または、FAX か、メールにてお送りいただきますようお願いいたします。

ご入会の手続きをいたしますので、後日、事務局から入会金や年会費のお支払い方法などの詳しい資料を送付します。

### ☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金無料・その場で、学会誌最新刊を進呈させて頂くというキャンペーン**を行っております。

そちらも、合わせてご案内いただきますようお願い致します。

### ■学会事務局宛■

〒533-0005

大阪市東淀川区瑞光3丁目3-25-101号

一般社団法人教育システム情報学会 事務局宛

TEL/FAX 06-6324-7767

Email : [secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)

## 事務局より

### ☆☆年会費請求書発送について☆☆

2014年度の年会費の請求ですが、本来なら2月頃に発送予定ですが、本年度は法人移行の手続き・名称変更等により発送が遅れております。会員の皆様にはご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございません。4月下旬から随時発送予定です。

2013年度以前の未納が続きますと、ご入金を確認できるまで、学会発送物をお止めさせて頂く場合がございます。また、規約により除名手続きを進めさせていただくこととなります。未納のある会員様は事務局までご連絡をいただければ、期日を過ぎましても受け付けておりますので宜しくお願い致します。ご不明な点がございましたら、事務局までメールにてお問い合わせ下さい。

**JSiSE 事務局 E-mail : [secretariat@jsise.org](mailto:secretariat@jsise.org)**

※ご登録いただいております情報に変更がございましたら、変更届を事務局までご提出ください。ご連絡が無い場合、学会発送物がお届けできない場合がございます。

#### ◎ 振込先 ◎

■銀行名 : ゆうちょ銀行 支店名 : 019 店  
■当座預金 : 0709632 ※00180-6-709632  
■口座名義 : 一般社団法人教育システム情報学会  
フリガナ : イツパンシヤダンホウジンキョウウイク  
システムジヨウホウガツカイ

#### ◎ 年会費のご案内 ◎

■正会員 : 7,000 円  
■準会員 : 4,000 円  
■企業・団体会員 : 50,000 円  
■研究報告年間購読 : 4,000 円  
■入会金 : 1,000 円 (初年度のみ)

## 学会誌・研究報告バックナンバーのお求めは

学会誌・研究報告のバックナンバーを購入ご希望の方は、㈱毎日学術フォーラムまでお申し込みください。

株式会社 毎日学術フォーラム  
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 2階  
TEL : 03-6267-4550 / FAX : 03-6267-4555  
Mail : maf-sales@mycom.co.jp / URL : <http://maf.mycom.co.jp>

■JSiSE 会員の方で「研究報告」の年間購読をご希望の方は、事務局までご連絡ください。この機会にぜひ年間購読されますようおすすめいたします。

■年間購読料 4,000 円/年 6 回発行<送料込>

## 他団体の協賛

I. 一般社団法人 情報処理学会 情報処理教育委員会  
『高校教科「情報」シンポジウム 2014 春 in 関西』  
日時 : 2014 年 5 月 17 日 (土)  
会場 : 大阪工業大学うめきたナレッジセンター